

平成27年度 大阪市社会教育委員会議 第1回全体会 議事録

1. 日 時 平成27年8月3日(月) 午後3時から4時30分

2. 場 所 阿倍野市民学習センター 講堂

3. 出席者

(委員)

岩槻委員・木原委員・小林委員・立田委員・長谷部委員・平井委員・弘本委員・
宮田委員・森下委員・吉岡委員

(教育委員会事務局)

山本教育長、松本生涯学習部長兼市立中央図書館長、大久保市立中央図書館副館
長、濱崎生涯学習担当課長、藏田社会教育施設担当課長、宮田地域サービス担当
課長、松村生涯学習担当課長代理

(こども青少年局) 谷口青少年課長

(経済戦略局) 松岡文化課長代理

4. 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席委員・出席関係職員紹介

(4) 議案

- ・ 社会教育委員会議の役員について

(5) 報告

- ・ 社会教育委員の異動について
- ・ 社会教育関係職員の異動について
- ・ 平成26年度社会教育関係予算と事業の概要について
- ・ 学校図書館活用推進事業について
- ・ 社会教育・生涯学習施設の動向について
- ・ 「これからの生涯学習施策のあり方について」(意見具申)について
- ・ その他

5. 議事要旨

事務局から、各議題について報告し、確認された。

[主な意見等について]

(学校図書館活用推進事業について)

- ・ 公共図書館が、学校図書館をどのようにバックアップしていくかがとても重要。学校図書館の環境づくりとともに、家庭内での読書活動、地域の中でも読書ができる環境づくりをしていくことが大事になる。子どもに対する読書活動の推進には、成人の読書をどのように向上していくかが大事になってくる。

- ・区ごとの特色ある取り組みが出てくるようなソフト面での仕掛けを考えていってもらえるよう期待している。
- ・学力アップありきで子どもの読書活動推進を進めると、子どもは余計に本を嫌いになる可能性がある。読書の習慣が身についたら結果的に学力が上がっていたというのが理想。

議事録

(学校図書館活用推進事業について)

立田) 今説明を伺って、図書館の活性化のために多くの予算が配分されること、学校図書館補助員、コーディネーターの配置が進むということで、感動している。その一方で、2点ほど質問がある。1点目として、学校図書館には、学校司書を置くのが望ましいが、この事業のこの予算規模からして、どのくらいの形で、(学校司書の配置について) 目標達成をしていく予定か? 2点目として、「読書は好きですか」という質問に対する肯定的回答のポイント数について、全国平均以上にする、「全国学力・学習状況調査」の結果における大阪市平均を全国平均以上にするという目標を達成するためには、家庭での読書活動への支援と、公共図書館の支援が必要となってくる。中央図書館として、学校図書館をサポートするための施策は考えているか。学校図書館と中央図書館の専門的な役割分担についても教えてほしい。

宮田) ご質問の1点目の学校司書については、平成27年4月に法改正がされ、配置の努力義務が言われているところ。本市においては、元気アップ事業などで、学校図書館の活性化を進めてきたが、この事業で、学校図書館のさらなる活性化に向けて大きく踏み出したと言えると思う。この事業を軌道に乗せること及び、目標を達成する中で、学校司書のことについても視野に入れていく。

2点目のサポート体制については、中央図書館に事務局のあるチーフコーディネーターが、地域図書館に配置するコーディネーターに対してのサポートや、考え方についての助言を行っていく予定。地域図書館の館長との情報交換、意見交換をしながら連携して進めていく予定。

4月1日から配置しているコーディネーターについては、1ヶ月間の研修を受けてもらい、毎月1度集まってもらって、企画を含めた専門性を高めている。補助員については、10月1日からの配置を目指しているが、2週間の研修で専門性を付けてもらう予定としている。

立田) 公共図書館が、学校図書館をどのようにバックアップしていくかということはとても重要。学校図書館の環境づくりとともに、家庭内での読書、地域の中でも本を読む環境づくりをしていくことが大事になる。貧困の問題もある中で、親が本を読む習慣がなければ、その子どもも本を読まない。子どもに対する読書活動の推進には、成人の読書をどのように向上していくかがとても大事になってくる。市として

の図書館事業全体の位置づけはどのようになっているのか。

山本) 将来的には、市全体の中での位置づけも明確化していくべきものであろうが、今回のこの事業に関しては、読書を通して人生を豊かにしていくための身近な生涯学習の核となるスタートとなるような事業と考えている。今回は補助員に学校図書館を回ってもらって、学校図書館の運営度を高めてもらう。そこに地域図書館がかかわっていく。また、区役所とも連携し、地域図書館の活性化もはかっていく。図書館を通じた生涯学習の活性化を図ることを意図している。中央図書館には、チーフコーディネーターを配置して、総括していく。

また、4月1日付で、区役所の職員に教育委員会との兼務発令をしている。この事業に関しては、来年度以降も継続していくので、中央図書館がセンター機能を果たしつつ、地域図書館を拠点として、各学校図書館と連携して、各区役所がそれぞれの地域の特性に応じた事業展開をしていくようなビジョンを持っている。年を追うごとに地域や区によって、バラエティに富んだ、具体的な事業がみえてくると思う。

立田) この事業を支援するための中央図書館と、各学校図書館の動きが見えるようなものが資料としてあれば、ビジョンが見えやすかった。例えば他都市では、街中ライブラリーと称して、オフィスにライブラリーを設けて、図書館と連携していくような取り組みや、アメリカでは、家の軒先に本を置くというリトルライブラリーといったような取り組みもされている。ソフト面で、特色のある事業をしかけていってもらえればいいと思う。コーディネーターからもいろいろなアイデアが出てくると思うが、区ごとの特色のある取り組みを出てくるような仕掛けを考えていってもらえると楽しいと思うので、期待している。

長谷部) 図書館の出前事業をやっているのでは？

大久保) バスを使った移動図書館事業は実施している。現在では、107か所のステーションを2台のバスで回っている。

岩槻) 私が現在住んでいる地域では、移動図書館事業はなくなってしまって、残念に思っている。楽しみにしている人も多いと思うので、大阪市ではぜひ継続していってもらえれば。

森下) 学校現場としても、この事業はありがたい。学校司書が1校に1人いるのが理想ではあるが。現在学校司書は学校に配置されているのか。将来的には、1校1司書になっていくのか。

宮田) 現在は、本市では、学校司書は配置されていない。司書の資格を持っている教諭や司書教諭がいる学校もある。週30時間の学校司書を置いている自治体もあるが、今回の事業では、学校図書館の補助員が学校図書館を巡回することで事業を始めた。本事業をしっかりと実施していくことで、効果をあげていき、様々な点で学校図書館の読書環境の整備に向けて努力していくことになる。

山本) 学校には、専任の司書が配置されていないので、学校図書館に多くの時

間を割くことができていないのが実状だと思う。不要になった本を捨てたところ空きスペースができたので、予算をつけて、3年間で、図書を増冊する。国でも、学校図書館の活用を考えていて、国からの予算が降りてきた時に、一般教諭よりも、優先順位が高いと行政的に判断すれば、司書をおいていくかもしれないが、多様な手段を取りながら学校図書館の機能をアップさせていきたいと考えている。

今年度より図書館長と生涯学習部長を兼務とし、子どもから大人まで幅広い市民が本を通じてふれあい学んでもらう仕組みづくりの第一歩として、この事業を位置付けている。区長と連携を取りながら、各区ごとに現実味のある事業にすることで、市の独自性も出していきたい。

学校教育と生涯学習の両立のわかりやすい例としての事業にしていきたいという思いがある。いずれにしてもまだ始まったばかりの事業なので、これから徐々にレベルアップしていきたい。

森下) 「読書は好きですか」という質問に対する肯定的回答のポイント数を全国平均以上にするという目標があがっているが、今現在のポイントはどのくらいなのか。

宮田) 小学生は、68.1% (全国平均 73%)、中学生は 57.7% (全国平均 69.4%)。市も年々アップしているが、全国平均も上がっている。差を縮めて上回るようにするのが目標。

立田) 学校図書館は、開館日数が、小学校に比べて中学校が下がるのが一般的だが、大阪市は全国的状況と違っている。小学生の時に本をたくさん読んでいても、中学生で読まなくなる傾向があるのをどうすればいいのか、という課題がある。小学校と中学校をわけて考える必要がある。

一般的には、開館日数よりも、貸出冊数を何冊以上にするという目標を上げることが多い。

宮田) 今回のこの事業に関しては、開館日数を増やすことで、読書環境を整備していくことを目標にしている。

立田) 貸出冊数を把握していないのではないかと？

山本) 貸出冊数を議論するほどまだ充実が進んでいないという認識。メンテナンスもこれまで十分ではなかった。ほとんど読まれていない本は廃棄したが、そこに必要な図書をこれから配置していく。補助員、コーディネーターと共に、どんな本を入れていったらいいかを議論しながら、配置していく。貸出冊数に関しては、開館日数がアップした後で議論していくことになると思う。これまでも、学校図書館の開放についてはある程度の活動はされてきているが、幅広い子どもが興味を持っているかというところでもないのが現状。開館日数を増やして、一定の機会を開いていくことが当面の目標となる。

平井) 学校図書館に入れる本はある程度決まったものなのか？

山本) どんな本を入れていくかはコーディネーターと一緒に話し合っ決めていく。

平井) 地域の学校では、夏休みにプール開放をしており、その間毎年図書館に当番が行って、子ども達は、プールの帰りに図書館に行って本を借りてくる。休みの間を利用すれば子ども達もたくさん本を読むようになるのではないかな。

長谷部) 予算も大きくついているし、補助員、コーディネーターも配置されると読書する人が全般に増えていくと思う。目標が3点ほど掲げられているが、補助員、コーディネーターの実際的な仕事としてはどんなことをするのか。子どもに対してもアドバイスをしていくのか。子どもの読書に対するサポートを直接行うのか。その役割について具体的に教えてほしい。

宮田) 今年4月から採用したコーディネーターに関しては、「学校図書館に対して必要な経験、技能を持っている人」という募集をした。実際には、司書資格を持っている人、司書教諭の資格を持っている人、学校で司書教諭をやっていた人などいろいろな方がいるが、応募の際には特に資格は問わなかった。民間企業出身の人もあり、30～70歳近い方まで社会経験をふまえた人たちがおられる。

10月から採用予定の補助員に関しても、資格が必要というわけではなく、採用後実施する研修を受けてもらうことでスキルを身につけてもらって、現場で生かしてもらいたいと考えている。図書を受け入れ、廃棄、配置など全般の実務を請け負う予定。地域図書館と各学校が連携して、地域図書館に配置するコーディネーターが学校図書館補助員をコーディネートする形。

長谷部) 子ども達の学力アップとこの事業はどのようにつながるのか。

宮田) 学校図書館の魅力を高めていくことは、学力アップにも間接的にじわじわと効果があるものだとは思われるが、直接的にはつながらないだろう。テストでもどんな問題かが読み取れない子どももいる。読書活動は国語力のアップにはなると思う。

長谷部) 子ども達の読解力の補助もするのか。

宮田) 直接的に子どもを指導するというよりも、読解力が上がるような資料や図書をどのようにそろえていくかという面でサポートする。

立田) 2点質問する。1点目は、補助員の研修の中で、「調べ学習」についてはどのように位置づけているか。2点目は、中央図書館(地域図書館)のシステムと、学校図書館のシステムの連動については考えているか。公共団体によっては、地域図書館と学校図書館の連動をはかり、学校の読書活動を地域図書館が補助しているようなシステムもある。

宮田) 1点目、補助員については10月の採用を予定しており、2週間の研修を予定しているが、調べ学習についても大事なことだと認識してこれまでも地域図書館よりサポートしてきており経験値もあるので、テーマとして入れていきたい。

2点目、システムの連動については、学校のシステム化が進んでいないということと、大阪市の24区の図書館をつなぐネットワークシステムはすでに全国的にも最大の規模を持っており、ここに学校のシステムとの連携となると、膨大なシステムになっ

てしまうので、今のところは考えていない。これからの研究課題となると思う。

岩槻) 目標のところ「全国学力・学習状況調査」の結果における大阪市平均を全国平均以上にするというものがあげられているが、学力の問題と読書の推進については、直結している問題ではない。学力アップのために本を読ませるとすれば、子どもは余計に本が嫌いになる可能性がある。本を読むようになったら、結果的に学力が上がっていたというのが理想。

(意見具申について)

岩槻) 3月24日に教育委員会に意見具申を手交した。様々な意見をもらったが、わかりやすかった、「生涯学習」という概念を改めて理解できたという声も聞かれた。大森委員長からは、意見具申に書かれているポイントはとても重要だが、それをいかに施策として計画に落とししていくかが大切だという意見をいただいた。総体的には、うまく受け取ってもらえたのではないかなと思う。今後の進捗状況を含めて見届けていければと思う。

立田) 意見具申をふまえた今後の動きについて教えてほしい。

濱崎) 庁内組織として、教育長をリーダーとするプロジェクト会議があるが、その中に区長会の代表、及び各局横断的に課題を検討するために、関連各局の課長を加え、体制を強化した。専門部会についても個別に進めている。現行の計画が平成28年3月に終了するので、今年度末を目途に次期計画の策定に向けて検討を進めていたが、市長の交代の可能性が高くなった今、新市長の意向もあるので、具体的なスケジュールについては、未確定だが、進捗状況からこれまでの成果と課題を押さえていきたいと考えている。

(指定都市社会教育委員連絡協議会)

岩槻) 初めて参加させてもらったが、政令指定都市の数の多さに改めて驚いた。それぞれの課題を抱えつつも、似たような課題もあるなと感じた。行政と大学との連携については、大阪市には資源はたくさんあるが、まだまだ協働についてはこれからであるとの報告を行った。

濱崎) 課長会議では、4つの協議題について話し合った。横浜市からは、「子どもから大人まで読書活動を効果的に推進するための具体的取り組みについて」ということで、読書活動を通じて、人と人が語り合い、つながっていくための取り組みについての議論があった。北九州市からは「多様な主体のネットワークに基づく学びの機会の提供について」という協議題が出された。北九州市でも、生涯学習の計画がH27までとなっており、次期計画の策定に向けて、多様な主体のネットワークに基づく学びの機会の提供について議論されているところ。民間、NPO、高等教育機関などが集まって協議会を立ち上げ、その役割分担、すみ分けについて検討されているということだった。福岡市からは「公民館に配置している職員への研修状況につい

て」協議題が出された。大阪市からは、「ICTを活用した、官民含めた生涯学習情報の発信や学習機会の提供について」という協議題を提出した。大阪市では、現在生涯学習情報システムとして「いちょうネット」を運用しているが、今後さらに、官民含めた幅広いツールにしていく必要があることから、この協議題を提案した。数市から運営要綱などを情報提供いただいた。新しい計画を策定する際にも必要なテーマだと思うので、今後も各市と連携を取りながら、計画づくりに役立てていきたい。

弘本) H27年度の予算の中で生涯学習情報システムの再構築の予算が減となっているが、市民サービスの低下にはなっていないのか。

濱崎) システムのリース期間が、H26年度までだったので、内容の見直しをはかりリニューアルを行った。その予算が前年度(H26)についていたが、再構築が完了したので、その分の予算は減っている。むしろ、リニューアルしたことで、画面が見やすくなったり、スマートフォンでもアクセスできるようになるなどより使いやすいものになったと思う。今後の方向性については引き続き検討していきたい。